

## 【胃癌患者の術後再発に関する危険因子の検討】

### 研究の概要：

胃癌の患者さんに対する、胃切除術の治療成績を評価して、臨床病理学的因子が、術後経過、再発形式、予後などに及ぼす影響について検討することを目的としています。

### 研究対象：

2001年1月1日から2019年12月31日までに、相澤病院外科、胃癌の診断で胃切除術を行った患者さんの診療録を対象とします。

### 研究の意義：

胃癌の患者の最も多い再発形式は腹膜播種<sup>ふくまくはしゅ</sup>と言われていますが、次いで肝転移による再発も多く認められます。胃癌肝転移に対して外科的治療により根治に至る割合も一定数存在すると報告されており、再発病変の早期発見も重要であると思われれます。胃癌の転移形式に沿ったリスク因子が同定できれば、再発高リスクの患者に重点的に検査を行うことで、早期発見につながる例が増えると考えられます。

### 研究の目的：

本研究は、外科で治療を行った胃癌患者について検討し、その治療成績を検証することを目的としています。

### 研究の方法および内容：

相澤病院の診療録データベースを利用して、診療録より必要な情報(患者背景、臨床経過、手術所見、術後経過)を収集し、統計学的な解析を行います。情報収集の作業に当たっては担当者がこれを行います。

### 個人情報に関する配慮：

人体から採取された試料ではなく、診療録を主とした既存資料を研究に用います。閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用<sup>に</sup>別途割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

研究責任者：竹内 大輔

〒390-8510 長野県松本市本庄 2-5-1

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 外科センター 竹内 大輔

TEL 0263-33-8600 / FAX 0263-32-6763